



# 機能、テンプレート、サービス、およびユーザ

---

Cisco Unified IP Phone をネットワークに設置し、ネットワーク設定値を設定して、Cisco Unified Communications Manager に追加した後は、Cisco Unified CM の管理を使用して、テレフォニー機能を設定する必要があります。必要に応じて、電話テンプレートの修正、サービスのセットアップ、ユーザの割り当ても行います。

この章では、これらの設定およびセットアップについて、手順の概要を示します。これらの手順の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

機能に関する情報をユーザに提供する方法、および提供する内容に関する推奨事項については、[社内のサポート Web サイト](#) を参照してください。

英語以外の環境での電話機のセットアップについては、[各言語ユーザのサポート](#) を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能, 2 ページ](#)
- [プロダクト固有のパラメータ, 32 ページ](#)
- [社内ディレクトリとパーソナルディレクトリのセットアップ, 33 ページ](#)
- [電話ボタンテンプレート, 35 ページ](#)
- [ソフトキーテンプレート, 38 ページ](#)
- [デバイスから呼び出された録音を有効化, 39 ページ](#)
- [サービスのセットアップ, 39 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加, 40 ページ](#)
- [ユーザ オプション Web ページの管理, 41 ページ](#)
- [モデル固有の機能, 44 ページ](#)
- [Cisco Unified IP Phone での EnergyWise のセットアップ, 47 ページ](#)

- UCR 2008 のセットアップ, 52 ページ

## Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後、電話機に機能を追加できます。次の表に、サポートされているテレフォニー機能を示します。これらの多くは、Cisco Unified CM の管理を使用して設定します。設定に関する参照先の欄は、設定手順や関連情報が記載されている Cisco Unified Communications Manager およびその他のマニュアルを示しています。

電話機のほとんどの機能の使用の詳細については、『Cisco Unified IP Phone 7931G User Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。



- (注) Cisco Unified CM の管理には、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービスパラメータもあります。サービスパラメータの詳細、およびサービスパラメータによって制御される機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

表 1 : Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能

機能	説明	設定の参照先
短縮ダイヤル機能	ユーザは、事前に割り当てておいたインデックスコード (1 ~ 99) を電話機のキーパッドで入力することで、電話番号をすばやくダイヤルできます。  (注) 短縮ダイヤル機能は、オンフックでもオフフックでも使用できます。インデックスコードは、ユーザが、Cisco Unified Communications Manager Web ページで割り当てます。	詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul>
参加のための選択機能を追加	単一の回線上の複数の既存のコールを結合して、会議を作成します。	詳細については、『Cisco Unified IP Phone 7931G User Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
エージェント グリーティング	<p>エージェントまたは管理者が、エージェントが発信者と話し始める前に、顧客コールなどのコールの開始時に、事前録音したグリーティングを自動的に作成したり再生したりできるようにします。エージェントは、必要に応じて1つまたは複数のグリーティングを事前録音し、グリーティングを作成および更新できます。</p> <p>顧客が電話をかけると、両方の発信者に事前録音されたグリーティングが再生されます。エージェントは、グリーティングが終わるまで待つこともできますし、グリーティングの途中で応答することもできます。</p> <p>エージェント グリーティング コールでは、電話機でサポートされるすべてのコーデックがサポートされます。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでエージェントグリーティングを有効にするには、[デバイス (Device) ]&gt;[電話 (Phone) ]を選択し、設定する IP Phone を指定します。[デバイス情報レイアウト (Device Information Layout) ]ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]を[オン (On) ]または[デフォルト (Default) ]に設定します。</p> <p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]を[デフォルト (Default) ]に設定した場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションで[システム (System) ]&gt;[サービスパラメータ (Service Parameter) ]を選択し、適切なサーバとサービスを選択します。[クラスタ全体にわたるパラメータ (デバイス - 電話機) (Clusterwide Parameters (Device - Phone)) ]ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ有効 (Builtin Bridge Enable) ]を[オン (On) ]に設定します。</p>
匿名コールブロック (SIP 電話機のみ)	ユーザが匿名のコールを拒否できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「SIP Profile Configuration」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
任意のコール ピックアップ	ユーザが、コールがどのように電話機にルーティングされたかに関係なく、コール ピックアップ グループ内の回線上的リダイレクトされたコールを CTI アプリケーションを使用してピックアップできるようにします。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Call Pickup Group」の章を参照してください。
処理されたダイレクト コール パーク	ユーザは、ダイレクトパーク機能を使用して、1つのボタンを押すだけでコールをパークすることができます。 ビジー ランプ フィールド (BLF) の [処理されたダイレクトコールパーク (Assisted Directed Call Park) ] ボタンを設定する必要があります。 アクティブ コールに対してアイドルな BLF の [処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park) ] ボタンを押すと、アクティブコールは、[処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park) ] ボタンに関連付けられたダイレクト パーク スロットにパークされます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Assisted Directed Call Park」の章を参照してください。
オーディオ メッセージ受信インジケータ	<p>ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカーフォンから聞こえるスタッター音により、ユーザが回線で新しいボイス メッセージを1つ以上受信したことが示されます。</p> <p>(注) スタッター音は回線によって異なります。この音が聞こえるのは、使用中の回線でメッセージを受信した場合のみです。</p>	<p>詳細については、次のガイドを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Message Waiting Configuration」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>
自動応答	<p>呼出音を1～2回鳴らした後に、着信コールを自動的に接続します。</p> <p>自動応答は、スピーカーフォンとヘッドセットのどちらでも機能します。</p>	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
自動ダイヤル	電話機のユーザがダイヤルするときに、発信履歴から該当する番号を選択できます。 コールを発信するには、ユーザは自動ダイヤルリストから番号を選択するか、引き続き手動で番号を入力することができます。	

機能	説明	設定の参照先
自動ピックアップ	ユーザは、コールピックアップのための、ワンタッチのピックアップ機能を使用できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Call Pickup」の章を参照してください。
自動ポート同期	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理者がリモートポート設定機能を使用して IP Phone の速度とデュプレックス機能をリモートで設定した場合、一方のポートの速度が他方のポートよりも遅くなると、パケットの損失が生じることがあります。</p> <p>自動ポート同期機能を使用すれば、2つのポートは最も低い速度に同期されるので、パケット損失が解消されます。自動ポート同期が有効になっている場合は、両方のポートに自動ネゴシエーションを設定することを推奨します。一方のポートで自動ネゴシエーションを有効にし、他方のポートの速度を固定にすると、電話機は固定されたポートの速度に同期されます。</p> <p>(注) 両方のポートを固定速度に設定すると、自動ポート同期機能は無効になります。</p> <p>(注) リモートポート設定と自動ポート同期の機能を使用できるのは、IEEE 802.3AF Power of Ethernet (PoE) スイッチだけです。シスコインラインパワーのみをサポートするスイッチとは互換性がありません。このタイプのスイッチに接続されている電話機でこの機能を有効にして、PoE で電話機に電源を供給した場合、Cisco Unified Communications Manager との接続が失われる可能性があります。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします。</p> <p>複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] &gt; [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configurations)]) で [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)] を有効にします。</p>

機能	説明	設定の参照先
割り込み（および C 割り込み）	<p>ユーザは、共有電話回線でプライベート コール以外のコールに参加できます。割り込み機能には、C 割り込みと割り込みがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• C 割り込みによってユーザがコールに追加され、会議に変換されるので、ユーザやその他の関係者は会議機能にアクセスできるようになります。</li> <li>• 割り込みでは、ユーザはコールに追加されますが、コールが会議に切り替えられることはありません。</li> </ul> <p>割り込みでは、次の2つの会議モードがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ターゲットデバイス（割り込み先の電話機）での組み込みの <b>Conference Bridge</b>。このモードでは、[割り込み (Barge)] ソフトキーが使用されます。</li> <li>• 共有された <b>Conference Bridge</b>。このモードでは、[C 割り込み (cBarge)] ソフトキーが使用されます。</li> </ul> <p>(注) 電話機の設定によっては、この機能を使用できない場合があります。詳細については、<a href="#">モデル固有の機能</a>、<a href="#">(44 ページ)</a> を参照してください。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Barge and Privacy」の章</li> </ul>
外線から外線への転送のブロック	<p>外線コールをユーザが別の外線コールに転送することを禁止します。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「External Call Transfer Restrictions」の章を参照してください。</p>
ビジュー ランプ フィールド (BLF)	<p>ユーザは、電話機のスピードダイヤルボタン、コール ログまたはディレクトリの一覧に関連付けられている電話番号のコール状態をモニタできます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Feature and Services Guide</i>』の「Presence」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
ビジー ランプ フィールド (BLF) ピックアップ (SCCP のみ)	BLF スピードダイヤルの拡張機能です。ユーザが着信コールをモニタリングできるように、電話番号を設定できます。電話番号が着信コールを受信すると、モニタリングしているユーザに対してシステムからアラートが発生し、コールをピックアップすることができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Feature and Services Guide</i> 』の「Call Pickup」の章を参照してください。
コールバック	通話の相手が話し中や通話不能だった場合、その相手が通話可能になったときに、ユーザの電話機に音声による通知と画面表示による通知が送信されます。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Call Back」の章</li> </ul>
コール監視人	<p>認証された監視人ユーザがコールを管理および録音できるようにします。</p> <p>コール監視人ユーザは、発信者からのコールを代行受信および応答し、着信者に対して会議を手動で作成し、そのまま会議に参加してコールを管理および録音します。コール監視人機能が設定された Cisco Unified IP Phone には、[録音 (Record)] ソフトキーがあります。コール監視人ユーザは、[録音 (Record)] ソフトキーを押してコールを録音します。</p> <p>監視されたコールでは、コールの開始時にアナウンスが再生されるか、参加者の 1 人がアナウンスします。通知によって、コールが録音されていることが後で参加者に伝えられます。</p> <p>コール監視人機能は、外部コール制御機能だけでサポートされます。この外部コール制御により、Cisco Unified Communications Manager で音声およびビデオを使用したコールを、ルーティング規則をホストするルートサーバにルーティングできます。</p>	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「External Call Control」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
コール表示の制限	発信回線および接続回線について表示する情報を、コールに関係する通話相手に応じて決定します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」の章</li> </ul>
コール転送	ユーザが着信コールを別の番号にリダイレクトできるようにします。コール転送オプションには、すべてのコールの転送、話中転送、無応答時転送、およびカバレッジなし時転送があります。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>ユーザオプション Web ページのオプション、(43 ページ)</li> </ul>
不在転送ループのブレイクアウト	不在転送ループを検出して防止します。不在転送ループが検出されると、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の設定が無視されて呼出音が鳴ります	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
不在転送ループの防止	ユーザが、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の接続先を電話機で直接設定する際に、不在転送ループが生じたり、既存の Forward Maximum Hop Count サービスパラメータに定められたホップ数の上限を超える不在転送チェーンが生じたりしないように防止します。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。



機能	説明	設定の参照先
設定可能なコール転送表示	<p>コールの転送時に電話機に表示する情報を指定できます。この情報には、発信者の名前、発信者の電話番号、リダイレクト先の電話番号、および最初にダイヤルされた電話番号を含めることができます。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul>
CFA の転送先の無効化	<p>管理者は、すべてのコールの転送（CFA）の接続先が CFA の転送元にコールを発信する場合には CFA を無効にすることができます。これにより、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に CFA の転送元に到達できるようになります。この無効化は、CFA の接続先の電話番号が内部か外部かに関係なく動作します。</p>	<p>設定に関する参照先を更新します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>
コール パーク	<p>ユーザがコールをパーク（一時的に保存）し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機を使用してそのコールに応答できます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Park and Directed Call Park」の章を参照してください。</p>
コール ピックアップ	<p>ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。</p> <p>電話機のプライマリ回線に、音声によるアラートまたは画面表示によるアラートを設定できます。このアラートによって、ピックアップグループ内でコールの呼び出しがあることが通知されます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
コール録音	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールを記録できます。コールが記録されている場合、コール中に記録音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティ ステータスが Cisco Unified IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、記録されていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
コール待機	<p>コールの最中に別の着信コールの呼出音が鳴っていることを通知し、ユーザが応答できるようにします。着信コールの情報を電話スクリーンに表示します。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications System Guide</i>』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
発信者 ID	電話番号、名前、その他の説明テキストなど、発信者の識別情報を電話スクリーンに表示します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」および「Directory Number Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」の章</li> </ul>
発信者 ID ブロック	ユーザの電話番号または電子メールアドレスをブロックします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」および「SIP Profile Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章</li> </ul>
発信側の正規化	着信コールの発信者番号をグローバル化またはローカライズして、適切な電話番号を電話機に表示します。国際エスケープ文字「+」をサポートしています。	詳細については、『Cisco Unified Communications Features and Services Guide』の「Calling Party Normalization」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
Cisco Extension Mobility	<p>ユーザが、電話機のエクステンション モビリティ サービスにログインして、共有 Cisco Unified IP Phone に電話番号およびユーザ プロファイルの設定を一時的に適用できるようにします。</p> <p>エクステンション モビリティは、ユーザが社内のさまざまな場所から作業する場合や、同僚と作業空間を共有している場合に役に立ちます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。</p>
Cisco Extension Mobility の PIN 変更	<p>ユーザが、Cisco Unified IP Phone のクレデンシャルの変更サービスを使用して、Cisco Unified IP Phone から PIN を変更できます。</p> <p>エクステンション モビリティのログアウト画面の [PIN 変更 (ChangePIN)] ソフトキーを使用します。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。</p>
Cisco Extension Mobility Cross Cluster (EMCC)	<p>「ホーム」クラスターで設定されたユーザが、「訪問先」クラスターの Cisco Unified IP Phone にログインできるようにします。</p> <p>クラスター間のエクステンション モビリティ (EMCC) を設定する前に、Cisco Unified IP Phone で Cisco Extension Mobility を設定します。</p> <p>インターコム機能は Cisco Extension Mobility (EM) で機能しますが、EMCC では使用できません。これは、インターコム機能は実際の電話デバイスで有効にする必要があるためです。インターコム機能は、EM プロファイルでは有効にすることができません。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Extension Mobility Cross Cluster」の章を参照してください。</p>
クライアント識別コード (CMC) (SCCP 電話のみ)	<p>コールが特定のクライアントに関連するように指定できます。</p> <p>(注) この機能を使用する場合は、一括ダイヤルを無効にする必要があります。詳細については、一括ダイヤルの行を参照してください。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
コンピュータテレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーション	CTI ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定して、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「CTI Route Point Configuration」の章を参照してください。
会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。会議機能には、会議、C 割り込み、およびミーティングがあります。</li> <li>• 標準 (アドホック) 会議では、コントローラ以外でも参加者を追加または削除できます。また、いずれの会議参加者も同じ回線上の2つの標準会議を結合できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」および「Conference Bridges」の章を参照してください。</li> <li>• これらの機能を有効にするには、[拡張アドホック会議 (Advance Adhoc Conference)] サービス パラメータ (Cisco Unified CM の管理ではデフォルトで無効になっています) を使用します。</li> </ul>
デバイスから呼び出された録音	<p>エンドユーザがソフトキーを使用して電話コールを録音できる機能を提供します。</p> <p>また、管理者は CTI ユーザ インターフェイスを使用して電話コールの録音を継続できます。</p>	詳細については、 <a href="#">デバイスから呼び出された録音を有効化</a> 、(39 ページ) を参照してください
ダイレクト コール パーク	<p>ユーザが、使用可能なダイレクト コール パーク番号をダイヤルまたはスピードダイヤルし、その番号にアクティブなコールを転送できる機能です。</p> <p>コールパーク BLF ボタンは、ダイレクトコールパーク番号が使用中かどうかを表示するとともに、ダイレクト コールパーク番号へのスピードダイヤルアクセスにも使用できます。</p> <p>(注) ダイレクト コールパーク機能を実装する場合は、[パーク (Park)] ソフトキーを設定しないでください。これは、ユーザが2つのコールパーク機能を混同するのを防ぐためです。</p>	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Call Park and Directed Call Park」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
ダイレクトコールピックアップ	ユーザが、特定の電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Call Pickup」の章を参照してください。
固有呼び出し音	ユーザは、着信コールや新しいボイスメッセージを電話機で示す方法をカスタマイズできます。最大 6 種類の固有呼び出し音をカスタマイズできます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Custom Phone Rings」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
Do Not Disturb (DND) (サイレント)	<p>DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。</p> <p>これには、電話機の設定でソフトキー テンプレートに [サイレント (DND)] ソフトキーを含めるか、電話ボタンテンプレートの機能の1つとして DND を選択します。</p>	

機能	説明	設定の参照先
		<p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Do Not Disturb」の章。</p> <p>Cisco Unified CM の管理では、次の DND 関連のパラメータを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [サイレント (Do Not Disturb) ] : このチェックボックスを使用すると、DND を電話機ごとに有効にすることができます。[デバイス (Device) ] &gt; [電話 (Phone) ] &gt; [電話の設定 (Phone Configuration) ] を選択します。</li> <li>• [DND オプション (DND Option) ] : [コール拒否 (Call Reject) ] (音声および表示による通知をオフにする) または [呼出音オフ (Ringer Off) ] (呼出音だけをオフにする) を選択します。[DND オプション (DND Option) ] は、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの両方に表示されます ([電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが優先されます)。</li> <li>• [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] : 電話機で DND がアクティブのときに着信コールに対して発生させるアラート (存在する場合) のタイプを選択します。このパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの両方にあります ([電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが優先されます)。</li> </ul>



機能	説明	設定の参照先
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• [DND を示す BLF ステータス (BLF Status Depicts DND) ]: ビジーまたはアイドル状態を DND ステータスで上書きできます。</li> </ul>
一括ダイヤル (SCCP 電話のみ)	<p>一括ダイヤルを使用すると、SCCPで電話番号のすべてのディジットを同時に送信できます。</p> <p>強制承認コード (FAC) またはクライアント識別コード (CMC) ダイヤルのいずれかが使用されている場合、一括ダイヤルを無効にする必要があります。</p>	<p>一括ダイヤルを無効にするには、Cisco Unified CM の管理で [デバイス (Device) ] &gt; [電話 (Phone) ] を選択します。 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ] 領域で [一括ダイヤル (Enbloc Dialing) ] ボックスをオフにし、 [設定の適用 (Apply Config) ] をクリックしてから [保存 (Save) ] をクリックします。</p>
ファストダイヤルサービス	<p>ユーザは、ファストダイヤルコードを入力してコールを発信できます。ファストダイヤルコードは、電話番号または [個人アドレス帳 (Personal Address Book) ] エントリに割り当てることができます。</p>	
強制承認コード (FAC)	<p>特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。</p> <p>(注) この機能を使用する場合は、一括ダイヤルを無効にする必要があります。詳細については、一括ダイヤルの行を参照してください。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。</p>
グループコールピックアップ	<p>ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
ヘルプシステム	<p>電話機の画面に広範囲にわたるトピックを表示します。</p>	<p>設定は必要ありません。</p>

機能	説明	設定の参照先
保留/復帰	接続されたコールのアクティブ状態と保留状態を切り替えることができます。	設定は必要ありません。ただし、保留音を使用する場合には必要です。詳細については、この表の「保留音」を参照してください。  また、関連情報については、この表の「保留復帰」を参照してください。
保留復帰	コールの保留時間を制限します。制限時間が経過すると、コールは保留にした側の電話機に復帰し、ユーザにアラートが通知されます。  復帰コールの通知は、着信コールの場合とは異なり、1回の呼出音（回線の新規コールインジケータの設定によってはビープ音）によって行われます。この通知は、コールが再開されるまで、一定の間隔で繰り返されます。  また、コールが保留復帰した場合は、コールバブルにアニメーションのアイコン、ステータス行に短いメッセージが表示されます。  コールのフォーカス優先度を着信コールまたは復帰コールのどちらかに設定できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Hold Reversion」の章を参照してください。
保留状態	共有回線を持つ電話機では、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できます。	設定は必要ありません。
ハントグループ表示	主要な電話番号へのコールに対して、ロードシェアリングを行います。ハントグループには、着信コールに応答できる一連の電話番号が含まれています。  ハントグループに含まれる電話番号に着信コールがあると、この機能によって、発信側の他に主要な電話番号が表示されます。	詳細については、以下を参照してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Route Plan」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「CTI Route Point Configuration」の章</li> </ul>
即時転送	ユーザが着信コールをボイスメッセージングシステムに直接転送できるようにします。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Immediate Divert」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
即時転送：拡張	ユーザが、自分のボイスメッセージングシステムまたは元の着信側のボイスメッセージングシステムに着信コールを直接転送できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
インテリジェントセッションコントロール	ユーザの携帯電話に直接かかってきたコールを会社の電話番号（固定電話）にルーティングできます。リモート接続先（携帯電話）への着信コールの場合、リモート接続先の呼び出し音だけが鳴り、固定電話の呼び出し音は鳴りません。携帯電話でコールに応答すると、デスクの電話機に「リモートで使用中 (Remote in Use)」というメッセージが表示されます。このようなコールでは、ユーザは携帯電話の多様な機能を使用できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。
インターコム	<p>ユーザが、プログラム可能な電話のボタンを使用して、インターコムコールを発信したり受信したりできます。インターコム回線のボタンを設定すると、次を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定のインターコム内線番号への直接的なダイヤル。</li> <li>• インターコムコールを開始してから、有効なインターコム番号の入力をユーザに要求。</li> </ul> <p>(注) ユーザが毎日同じ電話機にログインする場合は、それらのユーザの Cisco Extension Mobility のプロファイルを使用し、インターコム情報を含む電話ボタンテンプレートをユーザのプロファイルに割り当て、その電話機をインターコム回線のデフォルトのインターコムデバイスとして指定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<i>Cisco Unified CallManager Features and Services Guide</i>』の「Intercom」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified CallManager Feature and Services Guide</i>』の「Cisco Extension Mobility」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
回線をまたいで参加	ユーザが、複数の電話回線上のコールに参加機能を適用できるようにします。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">ソフトキー テンプレート, (38 ページ)</a> を参照してください。</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください</li> </ul>
回線選択	<p>この機能が無効な場合（デフォルト）、呼び出されている回線が選択されます。有効にすると、コールの呼び出しが別の回線で鳴っていてもプライマリ回線がピックアップされます。ユーザは他の回線を手動で選択する必要があります。</p> <p>(注) Cisco Extension Mobility では、この機能を有効または無効にできません。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の次の章で、[常にプライム回線を使用する (Always use prime line) ] オプションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Device Profile Configuration」の章</li> <li>• 「Common Phone Profile Configuration」の章</li> <li>• 「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> </ul>
ボイス メッセージ用回線選択	<p>無効な場合（デフォルト）、メッセージ ボタンを押すとボイス メッセージのある回線が選択されます。複数の回線にボイス メールがある場合は、使用可能な最初の回線が選択されます。有効にすると、ボイス メッセージの取得にはプライマリ回線が常に使用されます。</p> <p>(注) エクステンションモビリティでは、この機能を有効または無効にできません。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の次の章の [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] オプションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Device Profile Configuration」の章</li> <li>• 「Common Phone Profile Configuration」の章</li> <li>• 「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
ハントグループからのログアウト	ユーザは、コールを受けることができない場合に、ハントグループからログアウトし、一時的にユーザの電話機で呼出音が鳴らないようにすることができます。ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールでは、引き続き電話機で呼出音が鳴ります。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">ソフトキーテンプレート</a>, (38 ページ) を参照してください。</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章を参照してください</li> </ul>
Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼の識別)	ユーザが、不審なコールを受信したことをシステム管理者に通知できる機能です。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Malicious Call Identification」の章</li> </ul>
ミーティング会議	ユーザがミーティング会議を開始し、参加ユーザは予定の時刻に、あらかじめ決められた番号にコールをかけます。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Meet-Me Number/Pattern Configuration」および「Conference Bridges」の章を参照してください。</p>
メッセージ受信インジケータ	ハンドセットのランプの1つで、ユーザに対する1つまたは複数の新着ボイスメッセージが届いていることを示します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
モバイル コネクト	ユーザは、1つの電話番号を使用してビジネスコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話などのリモート デバイスで、進行中のコールをピックアップしたりすることができます。また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。
モバイル ボイス アクセス	モバイル コネクト機能が拡張され、ユーザは音声自動応答装置 (IVR) システムにアクセスして、携帯電話などのリモート デバイスからコールを発信できるようになります。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) (SCCP 電話のみ)	電話システムでコールの優先順位を付けることができます。この機能は、ユーザが緊急コールや重要なコールを発信または受信する必要がある環境で作業している場合に使用します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Multilevel Precedence and Preemption」を参照してください。
ライン アピアランスごとの複数コール	各回線は複数のコールに対応できます。ある時点では1コールだけがアクティブになることができ、他のコールは自動的に保留になります。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
保留音	発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Music On Hold」の章を参照してください。
ミュート	アクティブなハンドセットやヘッドセットにあるマイクロフォンをミュートにします。	設定は必要ありません。
オンフック コール転送	ユーザは、転送ボタンを押してからオンフックにすることで、コール転送を実行できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
オンフック プレダイヤル	ユーザは、オフフックにすることなく、番号をダイヤルできます。番号をダイヤルした後は、ハンドセットを持ち上げるか、[ダイヤル (Dial) ]ソフトキーを押します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified IP Phone 7931G User Guide for Cisco Unified Communications Manager</i> 』を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
他のグループのピックアップ	ユーザは、ユーザのグループに関連付けられている別のグループの電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールに応答できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Call Pickup」の章を参照してください。
電話機のセキュア Web アクセス	「電話の信頼性」と呼ばれる電話信頼ストアを使用して Web にセキュアにアクセスできます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』の「Product Security Overview」の章を参照してください。
プラス ダイヤル	ユーザは、先頭に「+」記号を付けて E.164 番号をダイヤルできます。  +記号をダイヤルするには、「*」キーを1秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフックかオフフックのコールに対してのみ、先頭桁をダイヤルするときに当てはまります。	設定は必要ありません。
Private Line Automated Ringdown (PLAR)	Cisco Unified Communications Manager の管理者は、ハンドセットをオフフックにすると Cisco Unified IP Phone がただちにダイヤルする電話番号を設定できます。この機能は、緊急連絡や「ホットライン」の番号にコールするための電話機を用意する場合に役立ちます。	SIP の場合、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「SIP Dial Rules Configuration」の章を参照してください。  SCCP の場合、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
プライバシー	回線を共有しているユーザが、コールに自分を追加すること、および他のユーザのコールに関する情報を電話スクリーンに表示することを禁止します。  (注) 電話機の設定によっては、この機能を使用できない場合があります。詳細については、 <a href="#">モデル固有の機能 (44 ページ)</a> を参照してください。	詳細については、以下を参照してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Barge and Privacy」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
Programmable Line Key (PLK; プログラム可能な回線キー)	管理者は、回線ボタンに機能を割り当てることができます。通常、ソフトキーは発信、コールバック、終了、不在転送などの機能を制御します。管理者がこれらの機能を回線ボタンに設定すると、これらの機能は常に表示され、ユーザは「ハード」機能（発信ハードキーなど）として使用できます。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Phone Button Template Configuration」の章</li> </ul>
保護コール	2 台の電話機の間にはセキュアな（暗号化された）接続を提供します。コールの開始時にはセキュリティ トーンが再生され、両方の電話機が保護されていることを通知します。保護コールを設定すると、一部の機能（会議コール、共有回線、エクステンションモビリティ、回線をまたいで参加）は使用できません。保護されたコールは認証されません。	<p>セキュリティの詳細については、<a href="#">サポート対象のセキュリティ機能</a>を参照してください。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
品質レポート ツール (QRT)	<p>電話機の [品質 (QRT)] ソフトキーを使用して、問題のあるコールの情報を送信できます。QRT は、QRT に必要なユーザインタラクションの量に応じて、2 つのユーザ モードのどちらかに設定できます。</p> <p>(注) 電話機の設定によっては、この機能を使用できない場合があります。詳細については、<a href="#">モデル固有の機能 (44 ページ)</a> を参照してください。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Quality Report Tool」の章</li> </ul>
リダイヤル	ユーザは、 <b>リダイヤル</b> ボタンを押して、最後にダイヤルした電話番号に発信できます。	設定は必要ありません。



機能	説明	設定の参照先
リモートポート設定	<p>管理者は、Cisco Unified CM の管理を使用して、電話機のイーサネットポートの速度とデュプレックス機能をリモートで設定できます。これにより、具体的なポート設定を伴う大規模な導入のパフォーマンスが向上します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager のリモートポート設定用にポートが設定されている場合は、電話機の日データを変更することはできません。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device) ]&gt;[電話 (Phone) ]を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ]ペインまでスクロールします ([スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ]または[PCポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration) ])。</p> <p>複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ([システム (System) ]&gt;[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configurations) ]) で [リモートポート設定 (Remote Port Configuration) ]を設定します。</p>
呼び出し音の設定	<p>電話機に別のアクティブコールが着信したときに、回線で使される呼出音タイプを指定します。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章</li> <li>• <a href="#">カスタム電話呼び出し音の作成</a></li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
呼び出し音の音量調節	<p>管理者は呼び出し音の最低音量設定を制御し、最低音量レベルを調整できます。個々のユーザが呼び出し音の最低音量設定を変更することはできません。</p> <p>パラメータ [呼び出し音の最低音量 (Minimum Ring Volume)] は Cisco Unified Communications Manager の管理ウィンドウにあります。</p> <p>音量ボタンのマイナス (-) 側を押すと、オンフック状態の呼び出し音の音量が下がりますが、音量は設定されている最低音量レベルまでしか下がりません。最低音量レベルに達すると、ステータスメッセージは表示されません。</p> <p>システムが再起動すると、呼び出し音の最低音量は設定ファイルから受信した呼び出し音の最低音量設定にリセットされます。前回の起動後に新しい最低音量を設定すると、エンドユーザがそれ以前に呼び出し音の最低音量を低く設定していた場合、呼び出し音の音量は、ユーザが設定したレベルではなく設定ファイルの最低値に設定されます。</p> <p>この機能は、通話中のハンドセット、スピーカー、およびヘッドセットの音量には適用されません。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします。</p>
SIP の RTCP 保留	<p>SIP の RTCP 保留機能によって、ゲートウェイで保留中のコールがドロップされなくなります。ゲートウェイでは RTCP ポートのステータスを確認して、コールがアクティブかどうかを判別されます。電話ポートを開いたままにしておくことによって、ゲートウェイは保留中のコールを終了しません。</p>	<p>設定は必要ありません。</p>

機能	説明	設定の参照先
セキュアおよび非セキュアの通知トーン	<p>Cisco Unified Communications Manager で電話機をセキュア（暗号化および信頼された）として設定した場合、その電話機には「保護」ステータスを割り当てることができます。その後、必要に応じて、保護された電話機は、コールの初めに通知トーンを再生するように設定できます。</p> <p>保護された電話機だけで、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンが再生されます。保護されていない電話機ではトーンは聞こえません。</p> <p>コール中にコール全体のステータスが変化すると、それによってインディケーション トーンも変化します。そのとき、保護された電話機は対応するトーンを再生します。</p> <p>次のような状況で、保護された電話機はトーンを再生する、または再生しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] オプションが有効 (True) になっている場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ エンドツーエンドのセキュアなメディアが確立され、コールステータスがセキュアになった場合、電話機はセキュアインディケーション トーン（間に小休止を伴う 3 回の長いビープ音）を再生します。</li> <li>◦ エンドツーエンドの非セキュアなメディアが確立され、コールステータスが非セキュアになった場合、電話機は、非セキュアのインディケーション トーンを再生します（間に小休止を伴う 6 回の短いビープ音）。</li> </ul> </li> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] オプションが無効になっている場合、トーンは再生されません。</li> </ul>	<p>セキュアおよび非セキュアの通知トーン：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [保護されたデバイス (Protected Device) ]：セキュアな電話機のステータスを保護に変更するには、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ]&gt;[デバイス (Device) ]&gt;[電話 (Phone) ]&gt;[電話の設定 (Phone Configuration) ]で、[保護されたデバイス (Protected Device) ] チェックボックスをオンにします。</li> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ]：保護された電話機で、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンの再生を有効にするには、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] を [はい (True) ] に設定します。（デフォルト設定は [いいえ (False) ] です）。このオプションは、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ]&gt;[システム (System) ]&gt;[サービスパラメータ (Service Parameters) ]で設定します。サーバを選択してから、Unified Communications Manager サービスを選択します。[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウで、[機能 - セキュア トーン (Feature - Secure Tone) ] 領域内にあるオプションを選択します。（デフォルト設定は [いいえ (False) ] です）。</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
サービス	Cisco Unified CM の管理にある [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] メニューを使用して、ユーザが登録できる IP Phone サービスのリストを定義して管理できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章を参照してください。
サービス URL ボタン	ユーザは、電話機の [サービス (Services)] メニューの代わりにプログラム可能なボタンを使用して、サービスにアクセスすることができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章を参照してください。
セッション ハンドオフ	ユーザが、携帯電話からのコールを、同じ回線を共有する Cisco Unified デバイスに切り替えられます。共有回線上のすべてのデバイスのハンドセットが同時に点滅します。  ユーザが Cisco Unified デバイスのいずれかでコールに応答した後、同じ回線を共有するその他の Cisco Unified デバイスに「リモートで使用 (Remote in Use)」というメッセージが表示されます。ただし、携帯電話からコールを切り替えられなかった場合、携帯電話に「会話は移動できません」という意味のメッセージが表示されることがあります。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Cisco Unified Mobility」および「Cisco Unified Mobility Advantage and Cisco Unified Mobile Communicator Integration」の章を参照してください。
共有回線	ユーザは、複数の電話機で同じ電話番号を共有したり、電話番号を同僚と共有したりできます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
サイレント モニタリング	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールのサイレント モニタリングを実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。コールがモニタされている場合、コール中にモニタリング音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティ ステータスが Cisco Unified IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、モニタリングされていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
スピード ダイヤル	<p>記憶されている指定番号をダイヤルします。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
SSH アクセス	<p>管理者は、Cisco Unified Communications Managerの管理アプリケーションを使用して、SSH アクセス設定を有効または無効にできます。</p> <p>このオプションでは、電話機が SSH アクセスをサポートしているかどうかを示されます。次の設定があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効 (Enabled)</li> <li>• 無効 (Disabled) (デフォルト)</li> </ul> <p>有効にすると、電話機が SSH 接続を受け入れるようになります。</p> <p>電話機の SSH サーバ機能を無効にすると、その電話機への SSH アクセスがブロックされます。</p>	<p>Cisco Unified Communications Managerの管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールし、[SSH アクセス (SSH Access)] ドロップダウンリストボックスから [有効 (Enable)] を選択します。</p> <p>同じパラメータを [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウで設定した場合 ([デバイス (Device)] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings)] &gt; [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] )、設定の優先順位は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの設定値</li> <li>2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値</li> </ol>
Time-of-Day ルーティング	<p>指定したテレフォニー機能へのアクセスを時間帯によって制限します。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Time Period Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Time-of-Day Routing」の章</li> </ul>
タイムゾーンの更新	<p>タイムゾーンの変更に伴い、Cisco Unified IP Phone を更新します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Date/Time Group Configuration」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
転送	ユーザは、接続されているコールを自分の電話機から別の番号にリダイレクトできます。	設定は必要ありません。
UCR 2008	<p>SCCP を使用する IP Phone は、次の機能を提供することによって Unified Capabilities Requirements (UCR) 2008 をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 連邦情報処理標準 (FIPS) 104-2 のサポート</li> <li>• TVS IPv6 のサポート</li> <li>• 80 ビット SRTCP タギングのサポート</li> </ul> <p>IP Phone の管理者として、これらの機能の一部では、Cisco Unified CM の管理で特定のパラメータをセットアップする必要があります。</p>	<p><a href="#">UCR 2008 のセットアップ</a>, (52 ページ) を参照してください。</p>
ビデオ サポート	電話機でビデオをサポートできるようにします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Video Telephony」の章</li> <li>• 『Cisco VT Advantage Administration Guide』の「Overview of Cisco VT Advantage」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
ボイス メッセージ システム	コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Voice-Mail Port Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>

## プロダクト固有のパラメータ

Cisco Unified CM の管理で、Cisco Unified IP Phone のプロダクト固有の設定パラメータを設定できます。次の表に、Cisco Unified CM の管理の設定ウィンドウおよびパスを示します。

表 2: Cisco Unified IP Phone の設定ウィンドウ

設定ウィンドウ	パス
[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ウィンドウ	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウ	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウ	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ] (ウィンドウの[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] 領域)

この3つの設定ウィンドウで、次のパラメータを設定できます。

- 設定アクセス (Settings Access)
- ビデオ機能 (Video Capabilities)
- Web アクセス (Web Access)
- ロードサーバ (Load Server)



- RTCP
- ピア ファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチ ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): Switch Port)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): PC Port)
- Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : スイッチ ポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : Switch Port)
- Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC ポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC Port)
- IPv6 ロード サーバ (IPv6 Load Server)
- 802.1X 認証 (802.1x Authentication)
- スイッチ ポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)
- PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)
- 自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)
- SSH アクセス (SSH Access)

パラメータを設定するときは、更新する設定ごとに[共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスを選択します。このボックスをチェックしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。3つの設定ウィンドウでパラメータを設定した場合、設定の優先順序は次のとおりです。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ (最も高い優先順位)
- [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウ
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ (最も低い優先順位)

## 社内ディレクトリとパーソナルディレクトリのセットアップ

Cisco Unified IP Phone のディレクトリ ボタンを押すと、いくつかのディレクトリにアクセスできます。デフォルトでは、このボタンは回線ボタン 22 (左側の上から 2 番目の回線ボタン) です。次のディレクトリが含まれます。

- 社内ディレクトリ : ユーザは、他の社員の電話番号を調べることができます。この機能をサポートするには、社内ディレクトリを設定する必要があります。
- パーソナルディレクトリ : ユーザが、一連の個人の番号を保存できます。

この機能をサポートするには、パーソナルディレクトリを設定するためのソフトウェアをユーザに提供する必要があります。

## 社内ディレクトリのセットアップ

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications Manager と連動する Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザの認証情報と認可情報を保存するために、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用しています。認証によって、システムに対するユーザのアクセス権が確立します。一方、許可は、ユーザが使用許可を持つテレフォニーリソース（特定の内線番号など）を指定するものです。

ディレクトリの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Understanding the Directory」の章を参照してください。

これらの機能をインストールおよびセットアップするには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「LDAP System Configuration」、「LDAP Directory Configuration」、および「LDAP Authentication Configuration」の各章を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定が完了すると、Cisco Unified IP Phone の社内ディレクトリ サービスを使用して社内ディレクトリ内のユーザを検索できます。

## パーソナルディレクトリのセットアップ

パーソナルディレクトリは、次の機能で構成されています。

- Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳)
- 個人ファストダイヤル (ファストダイヤル)
- アドレス帳同期化ツール (TABSync)

ユーザは、次の方法によってパーソナルディレクトリにアクセスできます。

- Web ブラウザから : Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション Web ページから PAB やファストダイヤル機能にアクセスできます。
- Cisco Unified IP Phone から : [ディレクトリ (Directories)] > [パーソナルディレクトリ (Personal Directory)] を選択して、電話機から PAB およびファストダイヤル機能にアクセスできます。
- Microsoft Windows アプリケーションから : TABSync ツールを使用して、PAB を Microsoft Windows Address Book (WAB) と同期化することができます。Microsoft Outlook Address Book (OAB) を使用するユーザは、まず OAB から Windows Address Book (WAB) にデータをインポートする必要があります。次に TabSync を使用して WAB をパーソナルディレクトリと同期化します。

Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer を使用しているユーザが、自分に関するエンドユーザ データのみにアクセスできるようにするには、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco UXL Web Service をアクティブ化します。

パーソナルディレクトリを Web ブラウザから設定するには、ユーザが自分のユーザ オプション Web ページにアクセスする必要があります。管理者は、ユーザに対して URL とログイン情報を提供する必要があります。

Microsoft Outlook と同期化するには、管理者から提供される TABSync ユーティリティをユーザがインストールする必要があります。詳細については、[Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer の入手](#)および [Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer の導入](#)を参照してください。

## 電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートを使用すると、プログラム可能な回線ボタンに、スピードダイヤルやコール処理機能を割り当てることができます。ボタンに割り当てが可能なコール処理機能には、コール転送、保留、および会議などがあります。

テンプレートの変更は、可能な限り電話機をネットワークに登録する前に行ってください。この順序に従うと、登録の実行中、カスタマイズした電話ボタンテンプレート オプションに Cisco Unified Communications Manager からアクセスできます。

Cisco Unified IP Phone 7931G に標準で搭載されているデフォルトのテンプレートでは、次の回線ボタンが使用されています。

- ボタン 1 ～ 8 : 電話回線
- ボタン 9 ～ 12 : スピードダイヤル ボタン
- ボタン 13 ～ 16 : BLF スピードダイヤル ボタン
- ボタン 17 ～ 20 : 未割り当て
- ボタン 21 : ボイス メッセージング システムへのアクセス
- ボタン 22 : ディレクトリ メニューの表示
- ボタン 23 : オプションのヘッドセットのアクティブ化
- ボタン 24 : アプリケーション メニューの表示

ユーザの混乱を防ぐため、同じ機能をボタンとソフトキーに同時に割り当てないでください。プログラム可能な回線ボタンには、次のガイドラインが適用されます。

- 次のボタンがプログラム可能な回線ボタンに割り当てられます。
  - ヘッドセット
  - アプリケーション メニュー
  - ディレクトリ
  - メッセージ

- 設定
- サービス

- リダイヤル、転送、および保留は、プログラム可能回線ボタンに割り当てることができません。これらの機能には専用のボタンとソフトキーが割り当てられています。

## 電話テンプレートの変更

Cisco Unified Communications Manager の [デバイスの設定 (Device Settings)] ページには、電話テンプレートが含まれています。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2** 電話ボタンテンプレートを電話機に割り当てるには、Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] フィールドを使用します。
- 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。
- 

## 個人アドレス帳やファストダイヤルの電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートを変更して、サービス URL を回線ボタンに関連付けることができます。電話ボタンテンプレートを変更すると、ボタンを 1 回押すだけで PAB およびファストダイヤルにアクセスできます。電話ボタンテンプレートを変更する前に、PAB またはファストダイヤルを IP Phone サービスとして設定する必要があります。

### [IP Phone サービス (IP Phone Services)] での PAB またはファストダイヤルのセットアップ

IP Phone サービスとして PAB またはファストダイヤルを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] を選択します。

[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されません。

**ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次の設定値を入力します。

- [サービス名 (Service Name)] および [ASCII サービス名 (ASCII Service Name)] : Personal Address Book と入力します。
- [サービスの説明 (Service Description)] : (オプション) サービスの説明を入力します。
- サービス URL (Service URL)  
PAB の場合は、次の URL を入力します。  
**http://<Unified CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab**  
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。  
**http://<Unified-CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd**
- セキュア サービス URL (Secure Service URL)  
PAB の場合は、次の URL を入力します。  
**https://<Unified CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab**  
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。  
**https://<Unified-CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd**
- [サービス カテゴリ (Service Category)] : [XML サービス (XML Service)] を選択します。
- [サービス タイプ (Service Type)] : [ディレクトリ (Directories)] を選択します。
- [有効 (Enable)] : チェックボックスを選択します。

**ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

サービス パラメータは必要に応じて追加、更新、または削除できます。『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「IP Phone Service Parameters」を参照してください。

- (注) サービス URL を変更した場合、IP Phone サービス パラメータを削除した場合、またはユーザの登録先の IP Phone サービス名を変更した場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、現在のすべての登録ユーザを更新し、変更を適用する必要があります。このボタンをクリックしなければ、ユーザがそのサービスに登録して、正しい URL を再作成しなければなりません。

## PAB またはファストダイヤル用の電話ボタンテンプレートの変更

PAB またはファストダイヤル用の電話ボタンテンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 電話機のモデルを示します。
- ステップ 4** [コピー (Copy)] をクリックし、新しいテンプレートの名前を入力した後、[保存 (Save)] をクリックします。  
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 割り当てるボタンを確認して、機能が表示されるドロップダウンリストボックスから、その回線に関連付けられた [サービス URL (Service URL)] を選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックすると、サービス URL を使用した新しい電話ボタンテンプレートが作成されます。
- ステップ 7** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 8** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックして変更内容を保存してから、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックして変更を実装します。  
これで電話機のユーザが、ユーザオプションページにアクセスできるようになり、電話機のボタンにサービスが関連付けられました。

IP Phone サービスの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。回線ボタンの設定方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章の「Configuring Speed-Dial Buttons」を参照してください。

---

## ソフトキーテンプレート

Cisco Unified CM の管理を使用して、Cisco Unified IP Phone でサポートされているアプリケーションに関連付けられたソフトキーを管理できます。Cisco Unified Communications Manager では、2 種類のソフトキーテンプレート (標準と非標準) をサポートしています。標準のソフトキーテンプレートには、標準マネージャ、標準共有モードマネージャ、および標準アシスタントが含まれます。ソフトキーをサポートするアプリケーションには、標準ソフトキーテンプレートを1つ以上関連付けることができます。標準ソフトキーテンプレートを修正するには、テンプレートのコピーを作成し、新しい名前を付けて、そのコピーしたソフトキーテンプレートをアップデートします。非標準のソフトキーテンプレートも修正できます。

ソフトキーテンプレートを設定するには、Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。ソフトキーテンプレートを電話機に割り当てるには、Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドを使用します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。



(注) Cisco Unified IP Phone 7931G は、Cisco Unified CM の管理で設定可能なすべてのソフトキーをサポートします。

## デバイスから呼び出された録音を有効化

Cisco Unified Communications Manager で、デバイスから呼び出された録音機能を設定します。この機能を有効にするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 IP Phone のビルトインブリッジを [オン (On)] に設定します。
- ステップ 2 録音オプションを [選択的コール録音を有効 (Selective Call Recording Enabled)] に設定します。
- ステップ 3 適切な [録音プロファイル (Recording Profile)] を選択します。

## サービスのセットアップ

Cisco Unified IP Phone の [サービス (Services)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスできます。また、電話機のプログラム可能なボタンにサービスを割り当てることもできます。

電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合、このメニューにアクセスするにはアプリケーションメニューボタンを押して、次にアプリケーションのリストから [サービス (Services)] を選択します。デフォルトでは、アプリケーションメニューボタンは回線ボタン 24 (左の一番上の回線ボタン) です。

これらのサービスは、テキストと画像によるインタラクティブコンテンツを電話機に表示するための XML アプリケーションを構成しています。サービスの例としては、映画の上映時刻、株式相場、天気予報などがあります。

ユーザがサービスにアクセスできるようにするには、前もって次の作業が必要です。

- 管理者が Cisco Unified CM の管理を使用して、使用可能なサービスを設定する必要があります。

- ユーザは、Cisco Unified Communications Manager を使用して、サービスに登録する必要があります。この Web ベース アプリケーションは、IP Phone のアプリケーションをエンドユーザが設定するための限定的なグラフィカルユーザインターフェイス（GUI）を提供します。

サービスをセットアップする前に、セットアップするサイトの URL をあらかじめ収集し、それらのサイトにユーザが社内の IP テレフォニーネットワークからアクセスできることを確認しておきます。

これらのサービスをセットアップするには、Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

これらのサービスを設定した後、Cisco Unified Communications Manager IP Phone オプション Web ベース アプリケーションにユーザがアクセスできることを確認します。ユーザは、設定済みのサービスをこのアプリケーションで選択し、サービスに登録することができます。エンドユーザに提供する必要がある情報については、[電話機能のユーザ登録およびセットアップ](#)を参照してください。

Cisco Unified IP Phone は、同時に最大 4 つの HTTP/HTTPS アクティブクライアント接続および最大 4 つの HTTP/HTTPS アクティブサーバ接続をサポートできます。HTTP/HTTPS サービスには、次のような例があります。

- Cisco Extension Mobility
- ディレクトリ
- メッセージ

## Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加すると、ユーザに関する情報を表示および管理できるようになります。またユーザは、次のタスクを実行できるようになります。

- Cisco Unified IP Phone から、社内ディレクトリや他のカスタマイズ済みディレクトリにアクセスする
- パーソナルディレクトリを作成する
- スピードダイヤルとコール転送の番号をセットアップする
- Cisco Unified IP Phone からアクセスできるサービスに登録する

次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Communications Manager にユーザを追加できます。

- ユーザを 1 名ずつ追加するには、Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。

ユーザを追加する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。



ユーザ情報の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』を参照してください。

- ユーザを一括して追加するには、一括管理ツールを使用します。この方法では、すべてのユーザに対して同一のデフォルトパスワードを設定することもできます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』を参照してください。

## ユーザオプション Web ページの管理

ユーザオプション Web ページでは、電話機のいくつかの機能や設定値をユーザがカスタマイズおよび制御できます。ユーザオプション Web ページの詳細については、『*Cisco Unified IP Phone 7931G User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SCCP and SIP)*』を参照してください。

## ユーザオプション Web ページへのユーザアクセス

ユーザがユーザオプション Web ページにアクセスできるようにするには、管理者がユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンドユーザグループに追加し、適切な電話機をユーザに関連付けておく必要があります。

エンドユーザには、必ずユーザオプション Web ページに関する次の情報を提供してください。

- アプリケーションにアクセスするために必要な URL。この URL は、次のとおりです。
  - **http://<server\_name:portnumber>/ccmuser/** (*server\_name* は Web サーバがインストールされているホストです)。
  - **https://<server\_name:portnumber>/ccmuser/** (*server\_name* は Web サーバがインストールされているホストです)。
- アプリケーションにアクセスするために必要なユーザ ID とデフォルトパスワード。  
これらの設定値は、ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加したときに入力した値と同じです (Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加, (40 ページ) を参照)。

詳細については、次の各項を参照してください。

- 『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「User Group Configuration」および「End User Configuration」の章
- 『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Roles and User Groups」

## エンドユーザグループへのユーザの追加

ユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンドユーザグループに追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Groups)] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [Standard CCM End Users] をクリックします。対象の Standard CCM End Users についての [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ページが表示されます。
- ステップ 4** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [ユーザの検索 (Find User)] ドロップダウンリストを使用して、追加するエンドユーザを探し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致するエンドユーザのリストが表示されます。
- ステップ 6** 表示されるレコードのリストで、このユーザグループに追加するユーザのチェックボックスをクリックします。リストが複数ページにわたる場合は、下部のリンクを使用して結果の続きを表示します。  
(注) 検索結果には、すでにユーザグループに属するエンドユーザは表示されません。
- ステップ 7** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- 

## ユーザへの電話機の関連付け

このユーザに適切な電話機を関連付けるには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示されるレコードのリストで、ユーザのリンクをクリックします。
- ステップ 4** [デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。  
[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** デバイスの左にあるボックスをオンにして、エンドユーザに割り当てるデバイスを選択します。
- ステップ 7** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックしてデバイスをエンドユーザに関連付けます。

## ユーザオプション Web ページのオプション

デフォルトでは、ユーザオプション Web ページのほとんどのオプションが表示されます。ただし、次のオプションは、システム管理者が Cisco Unified CM の管理で [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] の設定値を使用して設定する必要があります。

- 呼出音設定の表示 (Show Ring Settings)
- 回線のテキストラベル設定の表示 (Show Line Text Label Settings)
- コール転送の表示 (Show Call Forwarding)



(注) この設定値は、サイトのすべてのユーザオプション Web ページに適用されます。

## ユーザオプション Web ページオプションのセットアップ

ユーザオプション Web ページに表示されるオプションを指定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。  
[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [CCMUser パラメータ (CCMUser Parameters)] 領域で、パラメータの [パラメータ値 (Parameter Value)] ドロップダウンリストボックスから次のいずれかの値を選択し、パラメータをユーザオプション Web ページに表示するかどうかを指定します。
- [はい (True)] : オプションをユーザオプション Web ページに表示する (デフォルト)。
  - [いいえ (False)] : オプションをユーザオプション Web ページに表示しない。
  - [すべての設定を表示 (Show All Settings)] : コール転送のすべての設定をユーザオプション Web ページに表示する (デフォルト)。

- [すべての設定を非表示 (Hide All Settings) ] : コール転送の設定をユーザ オプション Web ページに表示しない。
- [すべてのコールの転送のみを表示 (Show Only Call Forward All) ] : すべてのコールの転送の設定だけをユーザ オプション Web ページに表示する。

## モデル固有の機能

Cisco Unified IP Phone 7931G は、小売環境などの特定の状況に最適な独自のコール処理機能をサポートします。これらの機能を設定するには、次の電話機固有の特徴を理解する必要があります。

- 1 回線に 1 コールのサポート
- 同一の電話番号の複数の回線への割り当て
- この電話モデル固有の一部のコールおよび設計の機能の可用性

## 電話機の一般的なセットアップ

Cisco Unified IP Phone 7931G は 1 回線あたり複数のコールをサポートしないため、管理者は Cisco Unified CM の管理を使用して各回線に対して電話番号を適切に設定する必要があります。

- [コール最大数 (Maximum Number of Calls) ] : 1 に設定します
- [ビジー トリガー (Busy Trigger) ] : 1 に設定します

電話番号の設定については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。

一部のコール機能（会議および転送）は、会議の作成または転送の完了を行うための新しいコール状態を開始できる必要があります。Cisco Unified IP Phone 7931G は 1 回線あたり複数のコールをサポートしないため、管理者は Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで、モデル固有の電話機の設定を行う必要があります。次の各オプションで、[アウトバウンド コール ロールオーバー (Outbound Call Rollover) ] の動作を選択する必要があります。

- [ロールオーバーなし (No Rollover) ] : このモードでは、会議および転送は動作しません。ユーザがこれらのいずれかの機能を使おうとすると、電話機のステータスに「エラー：制限を超えました (Error Pass Limit) 」と表示されます。このオプションは、CTI アプリケーションをサポートする必要がある場合のみ選択してください ([CTI アプリケーションのサポート](#), [46 ページ](#)) を参照) 。
- [同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN) ] : 同じ電話番号を使用して（異なる回線および異なるパーティションで）、会議およびコール転送を実行できます。たとえば、電話番号 1506 が回線 6 と 7 に割り当てられている電話機の場合を考えます。ユーザは

回線 6 上のアクティブなコールを転送しようとしています。ユーザが**転送**ボタンを押すと、回線 6 上のコールが保留され、回線 7 上で新しいコールが開始され、転送が行われます。

- [異なる DN にわたるロールオーバー (Rollover Across Different DN)] : 会議およびコール転送は、元のコールとは異なる電話番号と回線を使用して実行されます。たとえば、電話番号 1507 が回線 8 に、1508 が回線 9 に割り当てられている電話機の場合を考えます。ユーザは回線 8 上のアクティブなコールを転送しようとしています。ユーザが転送ボタンを押すと、回線 8 上のコールが保留され、回線 9 上で新しいコールが開始され、転送が行われます。

関連する設定情報については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章を参照してください。

## 複数の回線に対する同一電話番号

Cisco Unified IP Phone 7931G では、1 本の回線上での複数のコールはサポートされませんが、同一の電話番号を複数の回線に割り当てることができます。このことを行うには、複数のパーティションを作成し（少なくとも電話番号を共有する回線数と同数）、その後、各パーティションに電話番号を追加する必要があります。

この構成は、ユーザには複数の回線で同一の電話番号が構成されているように見えます。一方、Cisco Unified Communications Manager では、各電話番号は異なるパーティションに存在するため、一意であると見なされます。



(注) これらの電話番号は、必ず異なるパーティション内に存在しているため、本当の意味で同じ電話番号としては動作しません。

パーティションの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Partition Configuration」の章を参照してください。

## 割り込みおよび直接転送のサポート

異なる回線で同一の電話番号を使用することは、1 つの回線で複数のコールを扱うこととは異なる点を理解していないユーザが一部存在している可能性があります。この 2 つの場合で電話機の構成は異なり、同じ機能セットは提供されないことを説明する必要があります。

たとえば、次のコール機能は、複数のコールをサポートする単一の回線上で実現されます。

- 割り込みと C 割り込み（共有回線機能）
- 直接転送（転送機能）

Cisco Unified IP Phone 7931G は単一回線上の複数のコールをサポートしていないため、これらの機能を Cisco Unified IP Phone 7931G で使用することはできません。また、エンドユーザ向けマニュアルにはこれらの機能についての記載はありません。これらの機能のソフトキーが機能しないにもかかわらず電話機ディスプレイ上に表示される場合があります。ユーザがこの機能を使おうと

すると、電話機のステータスに「エラー：制限を超えました (Error Pass Limit)」と表示されます。

ただし、これらの機能が必要な場合、電話機を特殊な構成に設定することでサポートされるようになります (CTI アプリケーションのサポート, (46 ページ) を参照)。

## CTI アプリケーションのサポート

Cisco Unified IP Phone 7931G では、通常は 1 回線あたり複数のコールを許可されていません。ただし、WebDialer や Quality Report Tool (QRT) などの一部の CTI アプリケーションでは、1 回線あたり複数のコールが必要になります。組織でこれらのアプリケーションやその他の CTI アプリケーションを必要とする場合は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] 設定を 2 (推奨設定の 1 ではなく) に設定する必要があります。また、[アウトバウンド コール ロールオーバー (Outbound Call Rollover)] を [ロールオーバーなし (No Rollover)] に設定する必要があります。このように変更することで、ユーザは割り込み、C 割り込みおよび直接転送の各機能をその回線上で使用できるようにもなります。

コールは完全に機能する第 2 コールとはなりません。このコールの用途は、CTI アプリケーション、割り込み、C 割り込みおよび直接転送に限定されます。ユーザは、この回線を使用してコールの発信や受信を行うことはできません。

## ユーザに対する機能の動作

次の機能の可用性および使用法を明確に示す必要がある場合があります。特に、別の Unified IP Phone を使用したことがあるユーザに対しては、この情報を提供することが重要です。

- 回線キーとディスプレイ：Cisco Unified IP Phone 7931G には、24 個の回線キーと小型の電話表示画面が装備されています。そのため、電話番号、回線テキスト、アイコン、および回線キーがまとめて表示されません。ユーザは概要表示をスクロールして回線ステータスを確認する必要があります。この電話機では、それぞれのテキスト説明に回線番号 (1~24) が含まれているため、ユーザはその番号を物理的な回線キーと一致させることができます。
- コール機能ボタン：リダイヤル、転送、および保留用の標準ソフトキーに加え、Cisco Unified IP Phone 7931G にはこれらの機能に対応する物理ボタンが装備されています。これらのボタン機能は、他の Cisco Unified IP Phone のソフトキーと同等です。
- ローカル機能ボタン：一部の Cisco Unified IP Phone には、メッセージ、ディレクトリ、サービス、設定、ヘルプおよびヘッドセット用の物理ボタンが装備されています。Cisco Unified IP Phone 7931G にはこれらのボタンが装備されていません。その代わりに、ユーザは次のいずれかの設定可能な回線キーを使用してこれらのローカル機能を使用できます。これらの割り当ては変更できますが、デフォルトでは次のように割り当てられています。
  - 回線キー 24：アプリケーション メニュー (ヘッドセット以外の機能へのアクセス用)
  - 回線キー 23：ヘッドセット
  - 回線キー 22：ディレクトリ

## ◦ 回線キー 21 : メッセージ

- コール機能 : Cisco Unified IP Phone 7931G をサポートするためのパーティションおよびコーディング サーチ スペースを設定するときには、いずれのコール機能が最も重要であるかを考慮します。この設定は、コール転送や着信コール処理などの多くのコール機能の動作に影響します。

関連する設定情報については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Calling Search Space Configuration」および「Partition Configuration」の章を参照してください。

## Cisco Unified IP Phone での EnergyWise のセットアップ

システムに EnergyWise コントローラが含まれている（たとえば、EnergyWise 機能が有効な Cisco スイッチ）場合、電力消費を削減するために、電話機をスリープ（電源オフ）とウェイク（電源オン）に設定できます。

Cisco Unified CM の管理で、EnergyWise を有効にして、スリープ時間とウェイク時間の設定を行います。これらのパラメータは、電話機の表示設定パラメータと緊密に結びついています。

EnergyWise が有効になっていて、スリープ時間が設定されていると、電話機を設定時刻に復帰させるように、電話機からスイッチに要求が送信されます。この要求の受諾または拒否が、スイッチから戻ります。スイッチが要求を拒否した場合、またはスイッチが応答しない場合は、電話機はオフになりません。スイッチが要求を受諾すると、アイドル状態の電話機がスリープ状態となり、消費電力をあらかじめ決められたレベルに減らすことができます。アイドル状態になっていない電話機にはアイドルタイマーが設定され、タイマーの期限が切れると、電話機がスリープ状態になります。

スケジュールされているウェイク時間になると、システムは電話機の電力を元に戻して電話機を復帰させます。電話機をウェイク時間の前に復帰させるには、電話機の電源をスイッチからオンにする必要があります。詳細については、スイッチのマニュアルを参照してください。

次の表は、EnergyWise 設定を制御する Cisco Unified Communications Manager 管理ページの各フィールドについて説明しています。Cisco Unified CM の管理でこれらのフィールドを設定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。EnergyWise のパラメータは、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウおよび [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウでも設定できます。

表 3: EnergyWise の設定フィールド

フィールド	説明
Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)	<p>電話機の電源をオフにする日のスケジュールを選択します。複数の日を選択するには、Ctrl キーを押したままにして、スケジュールを設定する日をクリックします。</p> <p>デフォルトでは、どの日も選択されていません。</p> <p>[省電力を有効にする (Enable Power Save)] がオンになっていると、緊急 (e911) の問題について警告するメッセージを受け取ります。</p> <p><b>注意</b> Power Save Plus モード (以降「モード」) が有効である間は、モードに設定されたエンドポイントは、緊急コールが無効となり、インバウンドコールの受信ができません。このモードを選択することにより、次の条項に同意したものと見なされます。(i) モードが有効である間、緊急コールとコールの受信用の代替方法を責任を持って用意する必要があります。(ii) シスコはこのモードの選択に関して何の責任を負いません。このモードを有効にすることは、お客様の責任で行っていただきます。(iii) コール、発信、およびその他について、このモードを有効にした場合の影響をユーザに通知する必要があります。</p> <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>
電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで選択した日について、電話機の電源を自動的にオンにする時刻を決定します。</p> <p>このフィールドには、24 時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオンにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオンにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値はブランクで、これは 00:00 を意味します。</p>



フィールド	説明
電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus) ] フィールドで選択した日について、電話機の電源をオフにする時刻。</p> <p>[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time) ] フィールドと [電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] フィールドに同じ値が含まれている場合、電話機はオフになりません。</p> <p>このフィールドには、24時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオフにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオフにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値はブランクで、これは 00:00 を意味します。</p>
電話機をオフにするアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)	<p>電話機の電源をオフにする前に、電話機をアイドル状態にしておく必要がある時間の長さ。</p> <p>このフィールドの範囲は 20 ~ 1440 分です。</p> <p>デフォルト値は 60 分です。</p>
音声アラートを有効にする (Enable Audio Alert)	<p>これを有効にすると、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] で指定した時刻の 10 分前に電話機で音声アラートの再生が開始されます。</p> <p>音声アラートは、電話機の呼出音を使用します。この音は、10 分間のアラート期間中の特定時間に短く再生されます。呼出音は、ユーザが指定した音声レベルで再生されます。音声アラートのスケジュールは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源オフの 10 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 7 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 4 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 30 秒前に、呼出音は、15 回再生されるか、電話機の電源がオフになるまで再生されます。</li> </ul> <p>このチェックボックスが表示されるのは、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで 1 日以上が選択されている場合だけです。</p>
EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)	<p>その電話機が含まれる EnergyWise ドメイン。127 文字まで指定できます。</p>

フィールド	説明
EnergyWise シークレット (EnergyWise secret)	EnergyWise ドメイン内でエンドポイントとの通信に使用するセキュリティの秘密パスワード。  127 文字まで指定できます。

フィールド	説明
EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)	<p>このチェックボックスにより、EnergyWise ドメインコントローラのポリシーによる電話機への電源レベルの更新の送信を許可するかどうかを決定します。次の条件が適用されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 電話機が完全な省電力モードであり、レベルが任意のスタンバイレベルに設定されている場合、電話機はアイドル時に省電力モードとなり、次回の Cisco Unified CM でスケジュールされた電源レベルの変更時またはユーザインタラクションがあるまで、このモードが維持されます。</li> <li>2 電話機が省電力モードまたは完全にオンであり、レベルが任意の非動作レベルに設定されている場合、電話機はアイドル時に電源がオフになり、スイッチにより電源が再投入されるかユーザが電話機を復帰させるまで、電源オフの状態が維持されます。</li> </ol> <p>たとえば、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] が 22:00 (午後 10 時) に設定されていると仮定すると、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] フィールドの値は 06:00 (午前 6 時) となり、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] では 1 日以上が選択されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• EnergyWise が 20:00 (午後 8 時) に電話機をオフにするように指示すると、この指示は、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] で設定された午前 6 時まで有効となります (電話機ユーザによる介入が発生しないと仮定した場合)。</li> <li>• 午前 6 時になると、電話機はオンとなり、Cisco Unified CM の管理の設定による電力レベル変更の受信を再開します。</li> <li>• 電力レベルを電話機で再び変更するには、EnergyWise は電力レベル変更コマンドを新たに再発行する必要があります。</li> </ul> <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>

## UCR 2008 のセットアップ

UCR 2008 をサポートするパラメータは、Cisco Unified CM の管理にあります。次の表では、パラメータについて説明し、設定を変更する手順を示します。

表 4: UCR 2008 パラメータの場所

パラメータ	管理パス	手順
FIPS モード (FIPS Mode)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)
SSH アクセス (SSH Access)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (53 ページ)
	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)
Web アクセス (Web Access)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (53 ページ)  Web ページへのアクセスの制御
HTTPS サーバ (HTTPS Server)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (53 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)

パラメータ	管理パス	手順
80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (54 ページ)
IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]	ネットワークの設定メニュー
シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]	ネットワークの設定メニュー

## [電話の設定 (Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ

この手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- SSH アクセス (SSH Access)
- Web アクセス (Web Access)
- HTTPS サーバ (HTTPS Server)

## 手順

- 
- ステップ 1 [デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]を選択します。
  - ステップ 2 [SSH アクセス (SSH Access) ]パラメータを[無効 (Disabled) ]に設定します。
  - ステップ 3 [Web Access (Web アクセス) ]パラメータを[無効 (Disabled) ]に設定します。
  - ステップ 4 [HTTPS サービス (HTTPS Service) ]パラメータを[HTTPS のみ (HTTPS Only) ]に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ]をクリックします。
- 

## [共通の電話プロフィールの設定 (CommonPhoneProfileConfiguration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ

この手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- FIPS モード (FIPS Mode)
- SSH アクセス (SSH Access)
- 80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)

## 手順

- 
- ステップ 1 [デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile) ]を選択します。
  - ステップ 2 [FIPS モード (FIPS Mode) ]パラメータを[有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 3 [SSH アクセス (SSH Access) ]パラメータを[無効 (Disabled) ]に設定します。
  - ステップ 4 [80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP) ]パラメータを[有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ]をクリックします。
- 

## [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]ウィ ンドウでの UCR 2008 のセットアップ

この手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- FIPS モード (FIPS Mode)
- HTTPS サーバ (HTTPS Server)
- 80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)

## 手順

- 
- ステップ 1 [システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]を選択します。
  - ステップ 2 [FIPS モード (FIPS Mode) ]パラメータを [有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 3 [HTTPS サーバ (HTTPS Server) ]パラメータを [HTTPS のみ (HTTPS Only) ]に設定します。
  - ステップ 4 [80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP) ]パラメータを [有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ]をクリックします。
-

